

## ため池築造に関った先人

### 聖徳太子

聖徳太子（厩戸皇子）は、皇太子を経て、推古天皇元年（593年）には摂政となり、蘇我馬子と共に天皇を補佐した。

日本最古、推古14年（607年）に建造されたとされる五ヶ井堰は、聖徳太子によって造られたとされる。これは加古川下流の中州を利用して堰から水を引いたもので、東岸一帯200haを潤したと伝えられている。



### 今里伝兵衛

今里伝兵衛は、古宮組19ヶ村の大庄屋で古宮村庄屋をかねていた。今里家は代々続いた大庄屋で、父に続いて二代目であった。

今里伝兵衛重幸が一命をかけて姫路藩主榊原忠次に願い出た「新井用水」は、明暦2年（1656年）に開通したと伝えられる。



### 行基

行基は、河内国大鳥郡（現在の大阪府堺市）の生まれで、681年出家し、宣大寺で法相宗などの教学を学んだ。その後、集団を形成して関西地方を中心に貧民救済や治水、架橋などの社会事業に活動した。

稲美町中村にある円光寺は、743年に行基が開いたと伝えられる。狭山池（狭山市）、昆陽池（伊丹市）の築造に関わったことでも知られる。



### 空海（弘法大師）

空海は、弘法大師としても知られる日本真言宗の開祖である。延暦23年（804年）に留学僧として入唐し、大同元年（806年）に帰国後密教を伝え朝廷の信奉を得る。天宝年間に、日本最大のため池として知られる満濃池（満濃町）を築造したことで知られる。

稲美町中村にある円光寺には、空海の署名のある弁財天が所蔵されている。



### ヘンリー・スペンサー・パーマー（英国陸軍名誉少将）

ヘンリー・スペンサー・パーマーは、明治18年（1885）横浜水道着工のため来日した。その後、水道設置、横浜港初代鉄棧橋、横浜ドック、その他神戸・大阪・函館・東京など水道事業に関わり、勲三等旭日章を受けるなど数多く業績を残している。

明治20年（1887年）に退役後、御坂サイフォン（三木市）等の設計に関わり、明治26年（1893）54歳で没し、青山墓地に葬られる。



### 畑平六

畑平左衛門（平六）は、国包（加古川市）に井堰を設け導水する計画を提唱し、私財を投じて文化13年（1816年）に亀井堰の築造に貢献したとされる。

当時の国包村は、加古川の氾濫に苦しめられたばかりでなく、日照が続く干ばつに悩まされ、村人総出でハネツルベを使って朝夕かんがいするのが日課という有様で、国包村に嫁ぐ嫁はなかったと言われるほど悲惨を極めていた。現在では取水の安定と合理化をはかるため、現在は加古川大堰として改修された。

### 山崎宗左衛門（測量師）

明石郡和坂村の測量師であった山崎宗左衛門は、明暦3年（1657年）に提灯の明かりで土地の高低を調査し、用水路の整備によって通水が可能なることを確認した。

度重なる陳情を受けた時の明石藩主松平忠国は許可を与え、明暦3年（1657年）より農民が力を合わせて工事を始め、翌年の万治元（1658年）に幅1.5m、全長5.4kmの林崎掘割水路を完成させた。

### 田辺義三郎（内務技師、山田川疏水測量）

田辺義三郎は、当時の洋式土木を学んだ新進の技術官僚であり、山田川疏水事業に従事した。山田川からの取水は、用水路敷に岩盤が多いため、極めて困難であるとの判断を下し、代替案として淡河川から取水し、御坂地点のサイフォンにより志染川を横断する計画を立案した。

サイフォン通水は、ヘンリー・スペンサー・パーマー（英国陸軍名誉少将）が、明治18年（1885年）より新式水道（横浜市）で導入中であった。この新式技術に基づき、山田川から淡河川へ水源を切り替えた。